

令和7年度 学校評価報告書

1 学校教育目標等

<p>(教育目標) 「自立 貢献 創造」 ～基礎力・思考力・実践力をもち、磨き合って自立に向かう生徒の育成～ (めざす生徒像) 主体的な学びと仲間との学び合いを通して、深く考え実践する生徒 (めざす学校像) 安全安心を基盤に、生徒が生活・学習を創造するコミュニティ・スクール</p>
--

2 今年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善 ・存在感や成就感を大切に生徒指導 ・豊かな人間性・社会性を育む特別支援教育、道徳教育、人権教育・特別活動 ・笑顔と元気に満ちた教職員組織
--

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導 授業改善	各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を鍛えながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。	B	思考型めあてを設定し、生徒の主体的な態度や説明能力を養うことを目指した。事例を学びながら授業者がよりよい指導法を模索する機会を設けることができた。「校内授業交流会」の定例化など学び合う機会を校内で意識的に設定し、さらなる指導力の底上げを図る。
	I C Tの長所をこれまでの実践に組み合わせ、個々の生徒に応じた学習（個別最適な学び）と他者と協働する学習等（協働的な学び）の一体的な充実を図る。	B	端末の持ち帰りや、授業内でのI C T活用場が着実に浸透した。従来の指導とI C Tの長所を融合させ、思考を深めるための授業デザインをさらに検討していく。
生徒指導	教育相談活動を充実するとともに問題行動・いじめ等の早期発見・早期対応に努める。	A	指導時の複数対応を基本とし、いじめ事案や外部機関との連携に迅速に対応できた。今後も意識を高く持ち取り組むことが必要であり、初期対応の大切さをより意識していく。
	情報機器の使用について、生徒会活動や関係機関と連携し、コミュニケーションや肖像権の権利等を正しく理解させる。	B	情報機器取扱マナーに関する講演会を毎学期実施した。さらに、情報機器（スマートフォン等）の取り扱いに関し、外部機関と連携し、啓発活動を強化する。
特別支援教育	生徒一人一人の教育的ニーズや実態の把握を起点としたユニバーサルデザインや教育支援計画における合理的配慮を充実し、豊かな人間関係づくりと、ともに伸びる力を育成する。	A	生徒一人ひとりの特性を把握した「合理的配慮」や細やかな支援が実践できた。生徒の実態に即した特別支援教育のカリキュラム編成を組織的に進める。
人権教育	人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念を具体的に生活の中に生かせるよう、全教育活動を通じて命と人権の大切さを教え、共に生きる心を育む。	A	「Hand in Hand」や人権朝会が、人権について考える機会となった。組織的・計画的な同和学習や人権尊重の取り組みを継続する。
教職員組織	複数担任制等、日々の教育実践を振り返り、他の教職員と学び合うことを通して、専門性と実践的指導力の向上をめざし、研究と修養に努める。	B	1学級2名担任制により、教職員間の情報共有や協働が進み、指導力の向上や安心感、事務作業の分担による負担軽減に繋がった。担任間の円滑な連絡体制の構築や役割分担の明確化を図る。
	働きがいのある学校づくり、教職員の負担軽減を図るため、I C Tや外部人材の効率的かつ積極的な活用等により、更なる業務量削減に努める。	B	西紀中学校業務改善方針を策定し、計画的、組織的に業務改善を進めた。さらに、精選と工夫、校務の効率化、人的支援の効果的な活用等を、積極的に推し進める。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

学校経営の基盤、育てたい資質・能力を培うための土台として、「学習指導と生徒指導の充実」「安全で安心な居場所」「特別支援教育の充実」「地域とともにある学校」を達成するための、上記4点の重点目標について、理解を示していただいている。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・行事や地域貢献における生徒の姿として、地域の文化祭などの行事で、中学生がよく動いてくれたと地域で高く評価されていることを紹介していただき、生徒会が地域ボランティアに積極的に関わろうとする姿勢を評価していただいた。
- ・学校の情報発信について、学校のホームページを通じて、教職員の働く様子や、見えないところでの支援が発信されていることを評価していただいた。地域の方が学校の状況を把握しやすくなっているという好意的な意見もいただいた。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導 授業改善	生徒が1人1台端末を持つ風景が日常のものとして定着してきている点について、肯定的に受け止めていただいた。今後の期待として、端末を単に使うだけでなく、いかに効果的に、かつ質の高い学びにつなげるかが課題である。
生徒指導	生徒への指導と規律について、部活動の減少などで学習以外の面で叱られる機会が減っていることを懸念する。中学校のうちに、人間としての土台や生徒の規範意識を育てるための毅然とした指導を維持してほしい。
特別支援教育 人権教育	SNS教育の重要性について、人権教育の視点やSNS関連のトラブル未然防止を踏まえ、次年度に計画している「親子学習会」などの啓発活動の推進に期待を寄せていただいた。
教職員組織	今年度から導入した「1学級2人担任制」について、学校の新しい運営体制を肯定的に評価していただいた。